

TDA '06プロフェッショナルスクールプロジェクト プログラムA-2 板締め染色実習レポート

■開催日時：2006年7月29日（土） 10：00-16：30

■場 所：小山織物 かつては村山大島紬を織るための絁糸を染色していたが、現在はその技法で布を染色し、ミヤケイツセイ等新しいファッションに用いられ注目されている企業です。

■内 容：絹、特殊織地に板締めの応用、スカーフ、服地等を製作。
直接染料使用



。村山大島紬について

!地域をあらわす「村山」

江戸時代から通行していた「村山飛白（むらやまがすり）」等を参考にして採用されたとされている「文様をあらわす「大島」

明治末期から大正初期に新しい織物を地場産業として打ち出そうとしたときに、奄美大島で行われていた文様を中心に図案化したことから採用されたものと思われます。

#素材をあらわす「紬」

紬とは玉繭などの村のある糸を手で紡いで手織りで織った生地のことであるが、明治中期以降、製糸紡績が大量生産に移行し、村山や瑞穂地域でも少なくとも大正時代には一般の絹糸を使い高機によって織った製品が通行するようになりましたが「紬」の名称を変更することは行いませんでした。

\$板締絁（いたじめがすり）

板締とは文様を彫った二枚の板（水目桜の木を使用）の間に糸を挟み模様を染色する方法です。一枚の木型を作るのに7000円前後かかるといい、この木型を何枚も使うので製品の単価は大変高くなるという。村山の絁は縦横の絁で、精巧な文様を織り出すもので、大変複雑で手間のかかる作業によって行われる。高級な着物地などに使用されてきたが、最近では需要も減少している。ただしイツセイミヤケなど現代のファッションで注目されており、新しい使い方も出てきている。今回の実習では糸染めではなく、生地を板に挟んで染色する実習となった。



布を積みながら板にはさんでいく



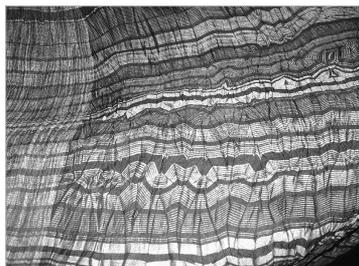
板を重ねボルトで締める



クレーンで染液槽まで移動



加熱された染液のシャワー



畳まれた布を開く



乾燥